

「地図豆」の地図を広げて街歩き

70-1 下総法華経寺散策（距離 約 3km）

日蓮宗大本山である法華経寺とその周辺の寺社を訪ねる。

法華経寺は、千葉縣市川市中山にある日蓮宗大本山の寺院です。創建は鎌倉時代の文応元年（1260年）だという。



下総法華経寺 五重塔

【道順】

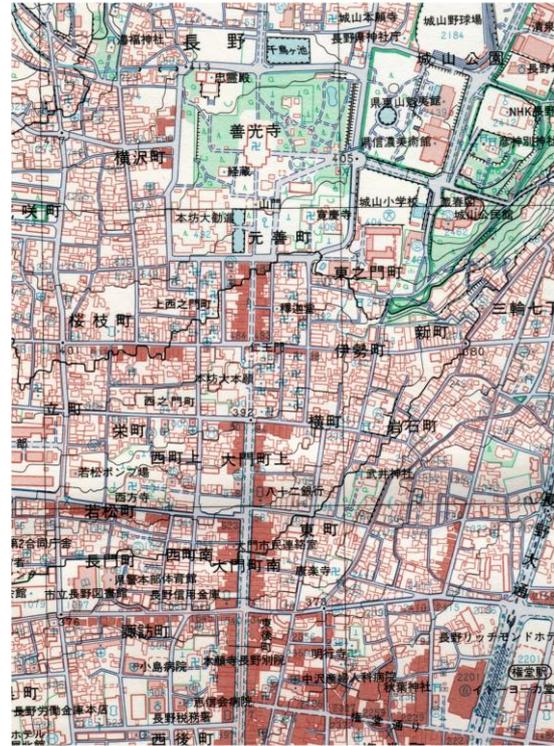
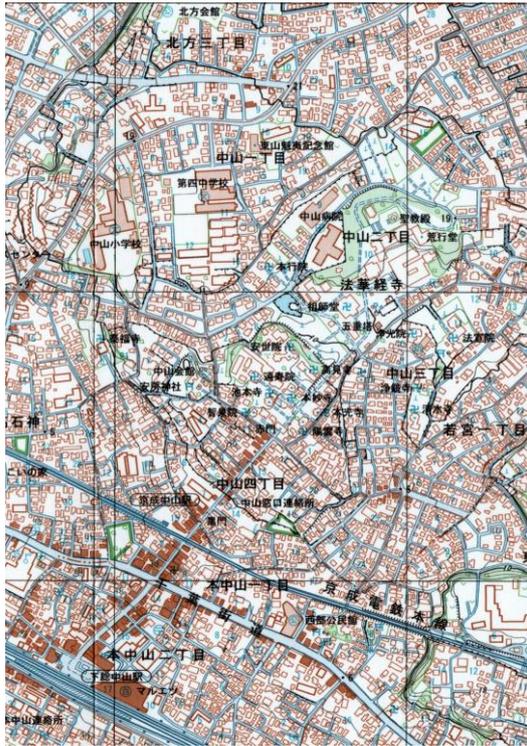
JR 下総中山駅から→法華経寺その他→下総中山駅

【街歩き解説】

門前町：

寺社の参詣者を対象として商工業者が店舗を造営し、参詣道路の両側を中心に街村状に形成された集落。神社の場合は鳥居前町ともいう。ほかに、社寺奉仕者や信仰者が門前に集落を形成した寺内) 町や社家町および御師町があり、それらを合わせて広義の門前町といえる。

伊勢神宮鳥居前の伊勢(宇治山田)市(山田)、善光寺の長野市、成田不動の新勝寺門前の千葉県成田市、東照宮の栃木県日光市、金刀比羅宮のある香川県の琴平、厳島神社の宮島、出雲大社の鎮座する島根県の大社(杵築(きづき))、高野山門前の和歌山県の高野、近代の宗教都市である天理教本山の天理市などが代表的門前町である。(ブリタニカ国際大百科事典)



下総法華経寺・長野善光寺

・法華経寺縁起（同寺 HP から）

当山は鎌倉時代の高僧日蓮聖人が最初に開かれたお寺です。

日蓮聖人は四つの大きな法難に遭われていますが、その一つ松葉ヶ谷の焼打に遭われた折、大信者でありました若宮の領主富木常忍公（日常聖人）と中山の領主、太田乗明公は当地に聖人をおつれして百日百座の説法御弘通をお願いし、聖人自ら釈迦牟尼佛を安置し開堂入佛の式を挙げられました。これが法華経寺のはじまりです。

その後文永元年（1264）11月11日、日蓮聖人は東条の郷小松原の地に於て、御難に遭われ眉間にきずを追われる危急の際、鬼子母神が出現し、その救護によって一命が救われ、中山に御避難された折、疵の養生のかたわら鬼子母神靈験に深く感じ、その尊像を自ら彫刻開眼されたのです。

今日中山の鬼子母神さまとして天下泰平、五穀豊穰、万民快樂、子育て守護等の祈願成就の御尊体として広く全国信徒の信仰を集めるに至ったのです。

近年その御靈験を慕う人にて育生会を組織し入会者が全国に広まっており、日常聖人は日蓮聖人のお書きになられた御書の散逸を逃れるため 置文や目録を作成し、今日に至っています。

・日蓮上人



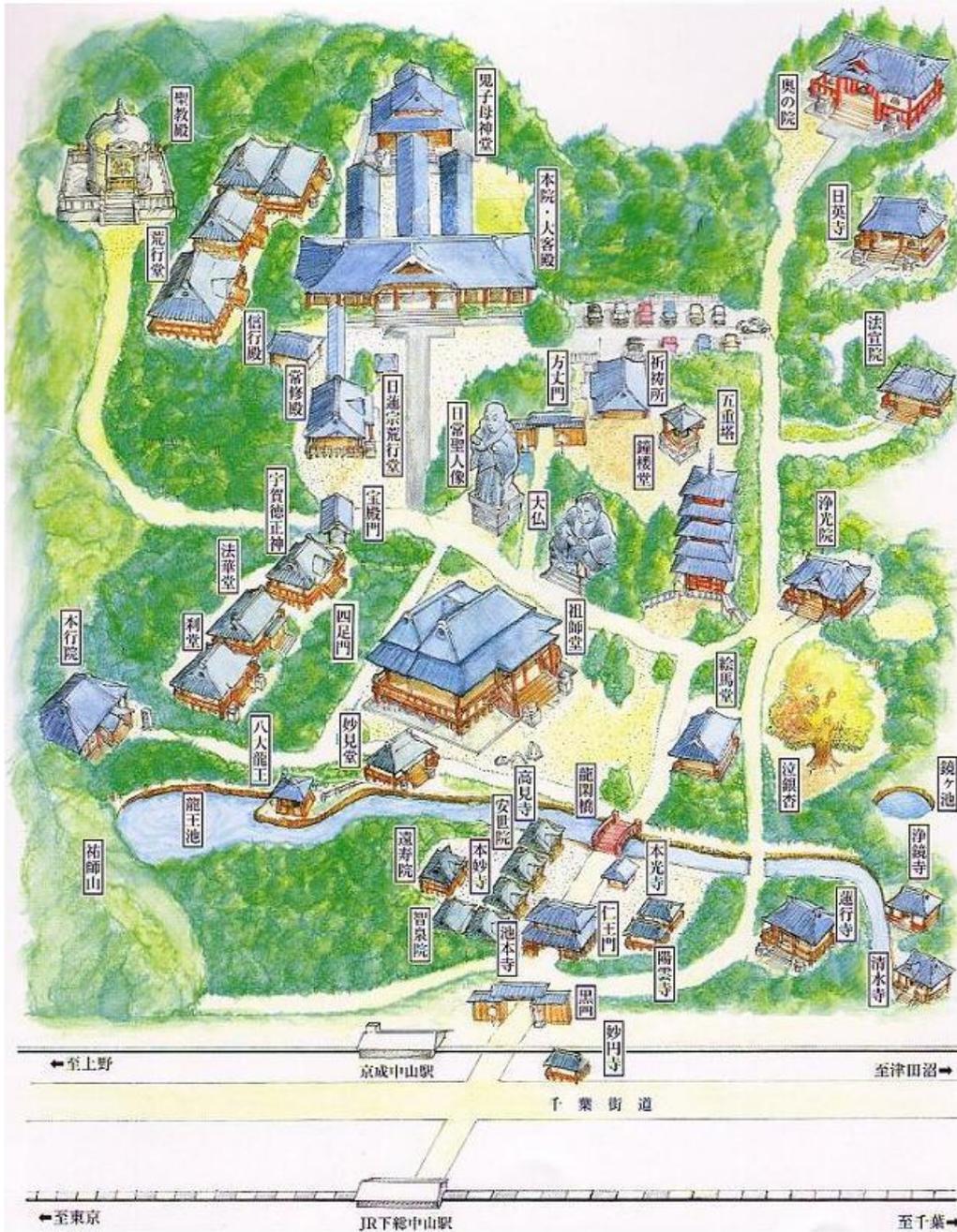
日蓮は法華宗を開いて仏教を大衆に伝えた僧。

1222年(貞応)元年2月16日、千葉県天津小湊で貧しい漁師の子として誕生し、11歳(もしくは12歳)の時に、勉学のために清澄寺へ登り道善房を師に仏法の手ほどきを受けます。

16歳の時に清澄寺にて出家しお坊さんとなりますが、幼少時より「なぜ釈迦の説いた教えであるにも関わらず、さまざまな宗派や経典があるのか」と疑問に思い、17歳で仏教探求のための旅に出ます。その後、鎌倉で念仏と禅を学び、延暦寺では天台宗を修め、その他園城寺、高野山、天王寺などを訪ね、1252年(建長)5年4月28日、32歳の時に「法華經を広めることで人々を救うことができる」と法華宗を開宗しました。

開宗後は幕府のお膝元、鎌倉松葉谷草庵(まつばがやつそうあん)に住み小町の辻で辻説法を行い、次第に有力な信者、弟子を得ていきました。しかし、他宗や幕府を痛烈に批判したために幾度となく迫害、法難を受けることとなり、最後は鎌倉を追われます。時が経ち、法難の一つ佐渡流罪を赦され再び鎌倉へ戻ることとなったのですが、やはり権力者たちは彼の諫言に耳を傾けず、1274年(文永)11年、54歳の時に彼はある信者の領地である甲斐の波木井に行き、山梨県の身延山にこもりました。

身延山では弟子の育成に努めましたが下痢に苦しみ、1282年(弘安)5年9月、61歳の時に湯治療養のために山を下り、常陸の温泉に向かいます。しかし、旅の途中、武蔵国の池上宗仲の屋敷で休息している時に10月13日、弟子らに囲まれながら、日蓮聖人は生涯を閉じました。ご遺骨は彼の遺志により身延の地に納められました。(日蓮宗ポータルサイトから)



***+ オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu ***+